

私の好きな日本のことば——私からあなたへのメッセージ 波は寄せては返す

東華大学 劉曼迪

「寄せて返す波、眺めてるだけ。『会えない』だけど、そばにいるよ。」

中国語では波のことを「海波」と表現しますが、日本語の「寄せて返す波」という表現を聞いた時、「美しいなあ」と感じました。波は寄せては返す、「寄せて」と「返す」の二つの意味が波に溶け込んで、波の動きが目の前に生き生きと浮かび上がって来るようです。

昨年の夏、長年江蘇省で働いている父が家族を海に連れて行ってくれました。一家三人での旅行は久しぶりでした。父は仕事でめったに帰らず、家に帰って来てもあまり話してくれないので、子供の頃から父には近寄りたいた気がしていました。

「いい機会だから、泳ぎ方を教えてあげるぞ。」父にそう言われても、水泳が全くできない私は海に入るのは怖くて嫌でした。しかし父を怒らせたくなかった私は、父に従うしかありませんでした。

海は少し怖いですが、嫌いではありません。その日は、日光も砂浜も暖かかったのですが、海の水は冷たくて、私は恐る恐る海に入りました。私の前を歩いていた父は何かを感じたように振り返って、何も言わずに私の手を取ってくれました。父の久しぶりの手がこんなに私を温かくしてくれたことに、少しびっくりしました。安心できた私は、父の手に導かれながら水中を歩きました。

「ここは深すぎるよ！」胸まで浸かる深さは、浮き輪のない初心者にとっては怖く感じるはずです。「大丈夫、お父さんがいるから。」「でも、波が来たらどうしよう…ああ、来た！」私がそう言ったところに、大きな波が押し寄せて来ました。あっという間のことで砂浜に戻るができなかった私は、父の腕をぎゅっと握りました。

「怖がることはない。跳び上がればいいんだ。」と父は冷静に言いました。「えっ？」

波が押し寄せてきた時、人の叫び声が聞こえました。私は落ち着こうとして父の「ジャンプ」のサインに従って跳び上がりました。波が私の顔を覆い、海水を少し飲んだものの、しっかりと踏みとどまりました。そして、波も消えていきました。少し刺激的でしたが、父が言った通り、私は波にのまれることはありませんでした。

「波の動きに従えば、何も怖くないよ、ほら、また来たぞ！」

私は徐々に波に慣れてきました。岸に着くまで父はずっと私の手を握ってくれていて、海水はいつも私を包んでくれていました。

「寄せて返す波、眺めてるだけ。『会えない』だけど、そばにいるよ。」私はふと『リライアンス』という歌の歌詞を頭に浮かべました。会えなくて会えなくて、なぜ海のように冷たいのか。父の背中を眺めながら思い続けた私はようやく悟りました。

中学校の時、父はよく出張に出っていたので、月に二回ほどしか会えませんでした。しかし、普段口数が少ない父は、出かける度に、必ず私に長い手紙を残してくれました。勉強の仕方や生活習慣のことなど、当時の私にとってはつまらない話ばかりで、私はよく読まずに引き出しに入れていました。しかし、今思い返してみると、あれほど無口な父がなぜ長文の手紙を置いていったのか、どれほど時間をかけていたのか。そう考えると涙が溢れてきました。

『会えない』だけど、そばにいるよ。」海のように冷淡ですが、心が繊細で温かい父は、不器用ながらも自分なりの方法で真面目に私に愛情を注いでくれていました。

家族のために仕事に追われる父の姿は、海のように遠くて握みにくいものです。しかし、波は去った後、必ず戻ってきます。「寄せて返す波」のように、父の心は戻ってきてくれて、私を守ってくれます。

以前の私は小さな魚のように、「父」という海の中で生きており、「お父さんはどこ？」と尋ねていましたが、寄せて返す波が体に当たった時、私はようやく気づきました。この20年、いつもあなたなりの方法で私のそばにいてくれて、ありがとう！